

目次

■ 制裁下で浮揚するロシア経済：パラドックスの背景	1
■ 統計速報	12
2023年1～11月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績	12
2023年1～11月の日ロ貿易	13
■ トピックス	16
アークティック2、不可抗力を宣言	16
一寸房、キルギスに支店開設	16
上川外相、ウクライナを初訪問	16
カザフ、ウズベクと脱炭素で覚書締結	16
米国、北朝鮮からのミサイル調達で制裁	17

制裁下で浮揚するロシア経済：パラドックスの背景

(一社)ロシアNIS貿易会 ロシアNIS経済研究所
所長 中居 孝文

はじめに

ウクライナ侵攻後、前例のない規模で発動された経済制裁は、ロシア経済に深刻な打撃を与えるだろう、とロシア当局や国際機関を含めて多くの専門家が予測した。しかし、そうした予想に反して、2022年のロシア経済の落ち込みは小さく、2023年に至っては3%を上回る成長を記録、今やロシア経済は回復し、成長軌道に乗っているかの様相を示している。本稿では、制裁下のロシアで、何故、こうしたパラドックスが生じているのかについて、その背景や要因を検討してみたい。

1. ウクライナ侵攻後のロシア経済

2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻に伴い、G7を中心とする西側有志諸国はロシアに対し、これまで前例のない大規模な制裁を発動した。当初、ロシア経済に与える影響は甚大であると多くの関係機関が考えていた。2022年5月時点でロシア経済発展省は同年のロシアのGDP増減率を▲7.8%、ロシア中央銀行は▲8.0～▲10.0%、またIMFは▲8.5%、世界銀行は▲8.9%と予測していた。すなわち、制裁の影響は、ソ連解体直後(1993年の▲8.7%、1994年の▲12.7%)や2009年の経済危機(▲7.8%)に匹敵する規模になると考えられたのである。

だが、実際には、図表1にみるように、2022年のロシアのGDP増減率は▲2.1%で、大方の予想に